

関西合唱団創立75周年記念第87回定期演奏会の企画の特徴と魅力目指す音楽づくり



2023年11月9日

特別号(2)

くれつせんじ

次回の定期演奏会は二つの委嘱作品の初演という意欲的なプログラムを企画しております。まず新実徳英作曲による混声合唱とピアノの

ための曲集「戦争と愛のバラード」は今年の演奏会で初演しましたが、今回の改訂版は竹内浩三他による新たなテキストによる初演となります。戦争のもたらす悲惨さをより深く表現する作品となっています。戦争放棄を宣言している世界に誇れる憲法9条を守り抜きたい私たちこそ世界の平和を願つて届けたい作品です。

もう一つの委嘱作品は安広真理さん、長森かおるさん作曲、上田假奈代さんテキストによる委嘱組曲「クウネルワラウ死ぬまで生きる」です。

生きづらい様々な状況がある現代社会において、難民支援、障害者施設、ジエンダー、保健所などの問題をテーマに実際の現場を取材し、団内で討議し深めきました。その中で私たち一人一人が人間らしく尊厳を持つて生きることのできる社会を願い生み出された作品です。憲法で謳われている第13条「個人として尊重され、生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利」、第14条「法の下に平等であって、人種、信条、性別、社会的身分又は門地により、政治的、経済的又は社会的関係において、差別されない」、

第25条「健康で文化的な最低限度の生活を営む

権利」など人間が大切にされる社会、未来への展望が開ける社会への願いを込めた作品となっています。

三つの企画は信長貴富編曲による世界の多彩な民族音楽の魅力を引き出した心躍る合唱作品です。日本人にも馴染み深い「コンドルが飛んでいく」「ラ・クカラーチャ」「コーピールンバ」「アーメージング・グレイス」などバンドも加わりこれららの世界の愛唱歌メドレーが多彩で変化に飛んだ見事なアレンジでジャズ、ルンバのリズムに乗せ気軽に楽しんで頂けるステージとなっています。

演奏会の最後は日本の青年だけでなく世界の青年も加わり、関西合唱団とともに創るステージです。近年、ロシアの侵略によるウクライナ戦争、イスラエルとパレスチナとの戦争など次々と起こる世界の悲惨な紛争に心を痛めていますが、世界の平和を願つて「イマジン」などの作品を多くの青年とともに迫力ある大合唱でお届けします。この未来に希望が持てる演奏はきっと感動と生きる力を感じて貰えるステージになると確信しております。

「うたごえ運動の創始者である関鑑子さんは

議論ではありません。その一番大切なのは心(思想)です」「音楽は楽譜に書かれた音符ではなく、生きた人間のほとばしる心の燃焼です」「うたには“うたごえ”が大切、同時に技術なしでは本物の表現は出来ない」というたごえ運動を進めている演奏者としてのたくさんの心得が述べられており、私たちの音楽創りにおいて大切にしなければならない課題だと感じています。

その上に立つて、私たちの音楽は何のために、誰に向かって、何を伝えるのかが“うたごえ”的にしなければならない視点だと感じています。だから高い芸術性と共に、誰もが受け入れやすく、わかりやすい音楽でなければならないと考えます。そして75周年記念演奏会では二つの委嘱作品を発表しますが、このように新たな作品を生みだし発信することこそうたごえを推し進める大きな原動力であり私たちの使命だと考えます。

日常生活から感じた様々な思いを作品に反映させ、その音楽をより多くの人たちに共感を広げられるような音楽運動を目指したい。そして平和・いのちを大切にし、誰もが尊厳を持つて生きられる社会を次の世代に引き継いでいくことを願い、これからも運動を広げていきたいと思います。

山本 恵造（指揮者）